

Aグループ

○課題

- ・周辺住宅への音の配慮が必要
- ・周辺の地域の人と仲良く進める  
事前通知、地域の方の参加、おすそ分けなどによる関係構築

○資源

・あるものを活かす＝竹の利用、田んぼ、水の利用、自然

○資源を活用したイベント展開など

- ・竹：タケノコ、流しそうめん、竹灯ろう、フィールドアスレチック
- ・木：楡木の活用  
➡切った跡地（竹林・雑木林）を活用し、イベントでつくり、つくったら壊す（仮設）
- ・手間をかけることも必要
- ・リニモウォークにはたくさんの方が参加する。  
まず、来てもらう、歩くことで知ってもらう
- ・平成こども塾：スペースを活用させてほしい  
女性や子どもの参加・・・やってみたら面白い
- ・リーダーやスタッフがいるとよい

○イベントを拡大

- ・生き物の調査や資源活用のイベント
- ・モリコロパークとの連携
- ・食べ物で人を集める（タケノコのフルコース）
- ・リニモ駅から歩けるコースをつくり、案内板やモニュメントを設置
- ・駐車場（50～100人分必要）
- ・遊びを取り入れる（竹スキーなど）
- ・ウォーキングの展開とマップ化
- ・いらぬものを資源に

市のイベントを、里山で開催してはどうか  
例：文化の家のイベント、コンサート、祭りなど

○自然を利用した拠点

- ・長久手らしい拠点づくり  
自然トラストのような  
古民家＋貴重種（サツヨウカ、タガ）保全
- ・観光との連携を図る

○運営

- 行政が軌道に乗るまで運営・民間委託も
- ◇人を育てる（ボランティアではない人・活動）  
活動しながらリーダー・スタッフ育成  
⇓  
イベント企画会議・月1回集まる中で展開  
⇓  
季節イベント（年3～4回）企画・運営  
⇓  
広報PR・・・⇒活用エリア拡大
- ◇コンセプトの明確化  
⇓  
得意分野で各団体と連携  
⇓  
ワークショップを継続し、成果を積重ねる  
  
周辺住民を巻き込み新しい団体を育成

Bグループ

全体コンセプト

愛着の持てる里山づくり シニア・子ども・家族

コンセプトづくりが大切

- ・エリアにより特色があり、エリア別のコンセプトと里山プランづくりが必要

しくみづくり

- ・地域のボランティアの取り込み
- ・来る人と里山をどう結び付けるか
- ・自転車コースをつくれれば早く進むのでは
- ・里山の中に子どもが入れる仕組みをつくる
- ・ふるさととしての里山を残す  
地元の人が楽しめる里山  
外からの人も楽しめる里山

行政に期待すること

- ・土台づくり・行政が旗振りをする
- ・枠組みづくり・ダメなことだけ行政でまとめる（ルール、ガイドライン）
- ・地権者との合意形成
- ・コンセプトに沿った場所の提供
- ・行政主導は面白くない・「こういう場所があるので活用して」

市民・活動団体にできること

- ・里山エリア内を自由に使えることが必要、ただ竹林整備は分担するなどルールをつくる  
例：竹林整備1回で3回竹の子掘りOK
- ・散策路を整備する（手作り）

熱意が大切

地権者合意など場所の提供を行政が、活動・活用内容は市民が考えて行う

里山エリアごとのコンセプト

■ほとぎの里 教育の里

- ・親子で思い出をつくる場
- ・人と人を結びつけるのが課題
- ・熱意のある人がいる、この人を中心に取り組めば進むのでは

■岩作 遊びの里

- ・岩作地域は子ども(=資源)が増えており、子どもが里山に入れる仕組みをつくる  
女の子が多い、小学生の7割が女の子
- ・プレイパーク・川遊びや、魚とり、釣り堀をつくり魚釣り、ツリーハウス  
中学生にツリーハウスをつくってもらう

■東山 自然の里

- ・資源が多いー水が湧く、竹、道（散策路）  
道（散策路）の整備を一番先に  
・間伐材の処理費は行政で
- ・散策路の整備→市民団体の手作り→費用の行政支援→竹林の範囲拡大
- ・プレイパークの場合は駐車場が必要

■三ヶ峯 散策の里

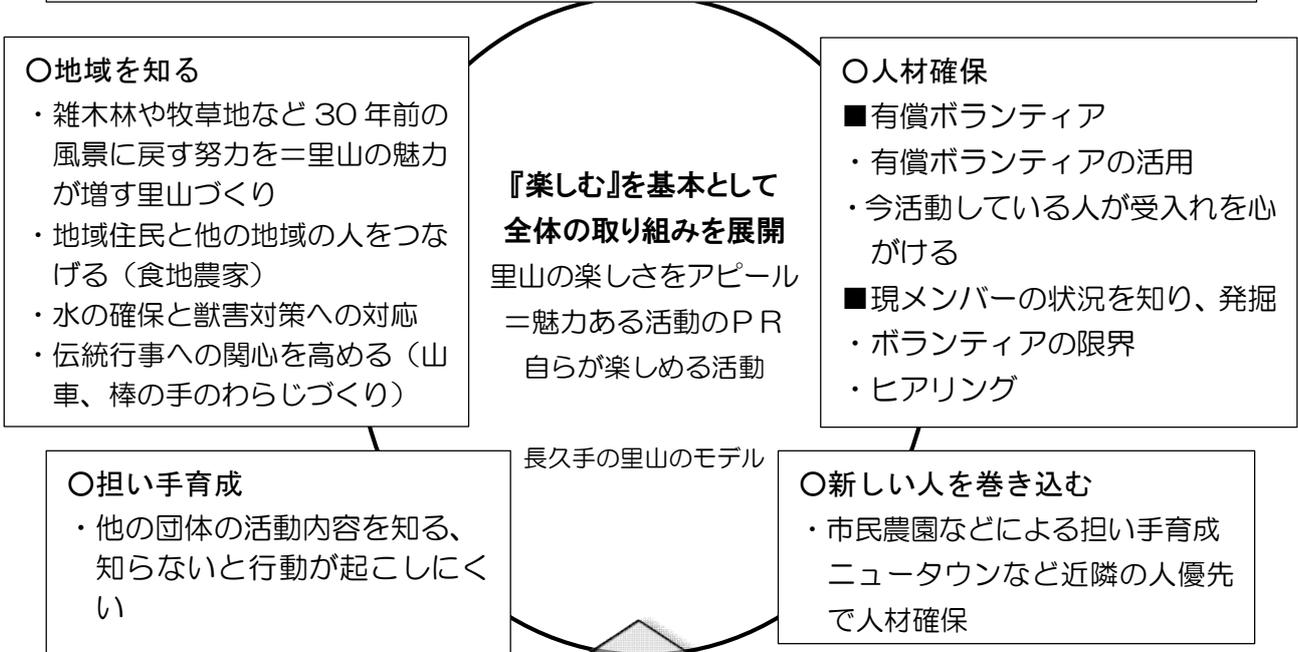
- ・学生を対象に、学生が使える里山
- ・子どもが遊べる里山
- ・エリアが広くまとまりにくい・きれいな散策の道で結ぶ

○大学・小学校との連携

- ・学生と里山をつなぐ 大学への声掛け、学生の協力
- ・県芸大 建築学科、デザイン学科、竹細工
- ・授業の一環として里山をつなぐ

C グループ

- 人のつながり
  - 団体交流
    - ・各グループの活動を知る
    - ・東と南で人員交流
  - 市民を巻き込む
    - ・都市部から人を呼ぶイベント
    - ・定期講座
    - ・農業体験＋食
    - ・親にも体験してもらう
  - 地権者との関係
    - ・地権者も参加したくなるようなプログラム作り
    - ・地権者との交流（竹林整備等）
    - ・民地所有者へのメリット提供（補助・減税）
    - ・里山投資信託
    - ・地域住民へのアピール
    - ・地主との土地の交渉
  - 芸大との連携
    - ・芸大生にアトリエとして開放



情報はネット上での掲示板、ブログ、  
そして『ロコミ！』が良い

■ポータルサイト（情報の一元化）

- ・里山情報ポータルサイトをつくる
- ・各団体の情報がバラバラ
- ・行政は各活動情報を総合的に集約する

■キャッチコピー（PRの仕方）

- ・「みんなで楽しむ里山づくり」
- ・里山を創る⇒里山を守る
- ・わかりやすい言葉で各人がポリシーを表記する

※里山モデル：日進は北高上、名古屋名東区は猪高緑地、瀬戸は海上の森